

自ら学び、判断し、行動する 生徒を育むための研究通信

M H K 通信

発行日 2016.10.5

【倉吉市立東中学校 〒682-0881 鳥取県倉吉市宮川町2丁目76番地】
【TEL 0858-22-6295 FAX 0858-23-4498】【E-mail kurae-j@mailk.torikyo.ed.jp】宣言授業など
今後の予定

池口10/13 伊藤10/19 清水上旬	10 月
片上・遠藤上旬 高木 中旬 増田11/26	11 月
山根12/9	12 月
山折中旬 山田下旬	1 月
吉田・重道2/1 校内授業研究会	2 月

学び合いを深め合いに

～第2回校内授業研究会 杉江先生をお招きして～

杉江先生の指導・助言より（抜粋）

3時間目を含めて

共同的な学びは基本的には学力論である。子供に本物の学力をつける。できるだけアクティブにはたらく場面を設ける。学習内容を深め、広げることに視点を置いておく、学び合いを深め合いにつなげる。どうやったら深まるかの仕掛けづくりを考えていただきたい。

全体的に日ごろ授業づくりに悩みながらも挑戦を続けて取り組んでおられることがうかがえてよかった。思考場面でワークシートの書き方の工夫をしてほしい。振り返りの場面や導入の工夫を積極的にされていた。教科書の



杉江 修治
中京大学教授
(鳥取県スーパーバイザー)をお招きしての授業研究会。今回も見ていただいたすべての授業についてご指導・ご助言をいただきました。

読み取りは読解力の訓練に良い。きちんとバランスよく有機的に結びついているか。どの子どもも学びたがっている。

高間先生 1年3組 道徳

教師主導かな。後半の資料を配って読んでいたが、資料を配らず続きを作りなさいという

ハイライト：

東中には授業ができてしまう不幸がある。先生が安心すると急にある日、子どもが動かなくなってしまう。授業ができることに安住しない。自分の考えがどれだけ深まったか。振り返りの内容についての交流をすることが深め合いにつながっていく。(杉江先生のご助言より)

子どもが主体的に動く仕掛けづくりを

展開はどうか。一人ひとりの自由な発想が生まれるし、伝え合える。おもしろい結果を生むのでは。結末を生徒が知りたければ授業の最後に教えてやればよい。

学習の流れを示されていない。なぜ示せなかったか。子供が主体的に動く仕掛けづくりを。学習の流れを書かなくても生徒に対して

一言を。学びの流れの説明は学びの構えづくりになる。個人思考の場面で先生が黙ってられない。本当につまずいている子だけにかかわる。時には話しかけるのを我慢することも必要。

みんなで課題などを共有するときは先生に

本当につまづいている子にかかわる

向かってのやりとりではなく、話す方も友達に向かってきちんと話さないと理解されないということを示す。

今回は教材を先生が読み上げるのを聞いて子供たちが黙読をしていた。しかし、あらかじめ課題を与えて子どもに読ませると時間が無駄にならない。読み合つてすぐに発問するのではなく、少しためがあって答えるようにさせたい。そうしないと浅い答えしか出せない。

文章を書くことが次に何につながるかわかっていると主体的な学びになる。学び

の構えの違いは大きい。なぜそう思ったのか理由を文章で書いていることの値打ちを示す。例えば「理由を書きましょう。他の人の意見を聞いてほしい。だからしっかり書きましょう。」など、何のためにやっているかわかっているとよい。

ペア学習おもしろい。何回ペア学習をやるのか言われなかった。初めから言ってもらえたら。同じ話ではつまらない。前のペアで聞いた話を1分たす。ペアの課題は何だったか。なければ意見を言い合っておしまいになる。活動の課題がある。男女ペアでも



徹底した個人志向をもとに横につながり、高め合う授業を目指す。(クラス全員が高まることを、全員の目標にしているか)【授業を構築する視点の明確化より】

発達段階との関係を意識した授業づくりを

一生懸命聞く。席を譲るといふ事例で思いやりを一般化できるか。どう感じたかでのよかったのでは。事例からくキーワードを拾う。隣同士で見合う。おもしろいところを



推薦するなどしたら多様なものが出てきたのでは。おばあさんの思いやりの視点が大切。思いやりを受け止めてくれる優しさ。あえて資料を前半と後半に切らないほうが良い。

眞山先生 3年3組 道徳

授業の導入として基礎的な知識を与え、二つの論説を読み取ることから出発するとよい。読み取りの際、どんな観点で読み取ればよいかを示す。例えば「自分にとっての(肉親にとっての)命とはという視点で読みなさい。」など。話し合いのさせ方も工夫

ができる。例えば「意見を言った人に対しては質問、意見を必ず返しましょう。」など。3年生は道徳性の発達段階としては上にある。発達段階との関係を

意識して、理想のあるべき世界を組み込んで授業づくりをしてもよいのでは。風邪からドナーは無理やりかな。もっと率直に入ったほうが良かったかと。最初から共通認識を入れてから話を始めたらよかったのでは。話の長さはよかった。大事なことからちゃんと聞きなさいでよいのでは。仕込みはしっかりしたほうが良い。

賛成か反対かは今の判断を聞く。残りの時間で考えが深まるか。今が出发点とはっきり言ったほうが良い。

脳死について話を聞こうとする態度はと

てもよかった。学習に対する構えを持っている。値打ちのある教材に接していることが大切。「誰の脳死なの」という疑問は課題に関わろうとしている証である。